

主題	地域資源として、近隣小学校へ出向き入居者の体験談を通じ、地域への貢献に関する研究
副題	現代の子どもたちへ向けて

地域交流	小学校	研究期間	3ヶ月
------	-----	------	-----

事業所	敬心福祉会・特別養護老人ホーム・千歳敬心苑		
発表者：小澤 智人（おざわ ともひと）	アドバイザー：坪谷 聖一（つぼや せいいち）		
共同研究者：田中菊奈（たなかきくな）野口和也（のぐちかずや）茅野麻美（ちのあさみ）			

電話	03-3307-1165	E-mail	chitose.tokuyo@keisinen.or.jp
FAX	03-3307-1140	URL	http://www.keisinen.or.jp/chitose/

今回発表の事業所やサービスの紹介	<p>所在地：東京都世田谷区給田 5-9-5</p> <p>施設概要：平成9年に事業開始された3階建ての特別養護老人ホーム。1階にはデイサービスを併設し、2階、3階が特別養護老人ホームとなっている。</p> <p>基本方針：いつも敬う心で、人権と尊厳を守り、入居者に接します。</p> <p>外出支援に力を入れ、一泊旅行を行っています。</p>
------------------	--

### 《1. 研究前の状況と課題》

地域開放について不透明な部分が多く感じ、事実どの程度地域開放・貢献を行っているのかが疑問に感じ研究に取り組もうと考えた。

近隣に小学校があり、施設へ「来苑」される事はあるが、「訪校」し触れ合うことはなかった。

施設へ毎年小学3年生が来苑される為、研究対象を小学3年生とし、事前にアンケートを行った。その結果、高齢者に対するイメージが「やさしい」といった事に反し、障がい者に対するイメージが「可哀相」といったマイナスイメージが多く障がい者＝身体障がいと考えている児童が多かった為、課題と感じ取り組む事とした。

### 《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

特別養護老人ホームで暮らす方々は多少なりとも、生活に障がいがある方が入所されている。地域交流にて高齢になるにつれ生活に困難を持ってしまう事がある。又、高齢者と触れ合う事が少なく体験談を通じ、高齢者や特別養護老人ホームで暮らす方々に対するイメージを変革し、地域資源としての貢献を目標とする。

将来の仕事とし、「介護士」を選択の1つに持てるよう、興味・関心を持ってもらう。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

- ① 近隣小学校3学年、159名(5クラス)に対し、入居者5名。で実施。
- ② 事前に小学生へアンケートを実地し、6月12日に入居者2名、2クラス(62名)6月19日に入居者3名、3クラス(97名)両日共に1クラスにつき入居者1名、と触れ合いお話しをさせて頂き、交流後再度アンケートを行った。
- ③ 平成26年1月に施設長と共に、交流に関し近隣小学校へ挨拶に伺う。交流の日付に関し、6月と定め、年度が替わるので、5月に再度挨拶に伺う。その後小学校に研究メンバーと共に訪校し、交流方法について話し合いを行う。
- ④ 具体的な取り組み方法として、「高齢者、特別養護老人ホームに対するイメージ」のアンケート調査を行う。入居者に対して、地域交流に関してお話しできそうな方や、子ども好きな方を選定し、5月、6月と地域交流に向けて他入居者の前でお話しの練習を行う。小道具として、昭和40年代の地域写真と現代写真での比較や、戦争時中の体験談で使用する資料の作成を行った。
- ⑤ 1名の入居者につき、職員1名とし地域交流へ向けて事前に話し合い、フロアでの練習を行った。
- ⑥ 小学校への連絡は研究者が行い、看護師に当日入居者が外出出来るよう支援を行った。

### 《4. 取り組みの結果と考察》

事前アンケートにて高齢者の事をどのように感じるかとの問いに「やさしい」と答えたのが全体の32%に対し障がい者をどのように感じるかとの問いには「可哀相」との答えが

全体の47%との結果となった。障がいとは、身体障がいだけでなく、高齢になるにつれ生活が困難となってくることも含まれているのではないだろうか。児童たちは高齢者と触れ合う機会が殆どないので、直に触れ合い高齢者に理解・関心を持ってもらいたいと考え、地域交流にあたった。交流後、交流入居者により特色を見せたが、全体として、障がい者をどのように感じるかとの問いに「可哀相」との答えが全体の42%となりさほどのイメージ変革はなかった。しかし地域交流会での感想を聞いたところ、「楽しかった」「嬉しかった」「良かった」と言った答えが全体の38%との結果を見せた。小学生が直に入居者に触れ合う事により、高齢者の体温を肌で感じ理解を示した結果と考えている。

### 《5. まとめ、結論》

子どもはみな感受性豊かな為、幼少の頃より高齢者と触れ合い沢山の事を学ぶ事が重要なのではないだろうか。では地域資源とし、特別養護老人ホームはどのような事が出来るのだろうか。地域へ向けての発信、行動が重要だと感じる。

### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、小学校、入居者ご本人に口頭で確認をし、本研究発表以外で使用しないこと、それにより不利益を被らないことを説明し、回答をもって同意したこととした。

### 《7. 参考文献》

井上邦彦(2012年)変わる勇気、変える勇気 生産性出版

### 《8. 提案と発信》

地域へ向け発信、貢献を強く意識し、今後も続けて行くことで、大きな成果を築いて行きたい。

【メモ欄】

